

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぎ高粱（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日		令和7年9月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	211	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和7年9月3日		令和7年9月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年9月1日		令和7年9月19日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	39	(回答数) 39
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的な訪問支援の実施により、所属機関での様子を定期的に確認できること。	前回の訪問記録を確認して、所属機関の先生方と児の変化や成長を客観的に共有すること。	子どもの行動の変化を特性の視点から発信できるようにすること。
2	同法人内の相談支援事業所との情報共有が迅速に行える。所属機関及び家庭の様子を把握した上で所属機関でのニーズや手立てを検討できること。	相談支援事業所から計画やモニタリングの情報をいただき、訪問時の観察ポイントや家庭のニーズを確認すること。	幼児は2か月に1回、学童期は学期に1回の訪問であり、その日の様子だけでなく、長期的な変容を確認して訪問支援を行う。
3	同法人内の児童発達支援及び放課後等デイサービスの職員と情報共有を行える為、子どもの行動を観察後、速やかに意見交換や複数の視点での見立てが行えること。	同法人の療育機関の支援会議に参加して、所属機関での集団適応の視点から手立てを提案すること。	子どもが大きな集団に適応するために必要なスキルを整理した上で所属機関での様子を確認すること。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の育成	子どもの様子観察、見立て、手立てのプロセスをほぼ1人で行う為、チーム支援になりにくい。	業務において相談できる体制づくりと訪問支援において必要なスキルの研修。
2	所属機関及び保護者への専門的な視点での説明のスキル	個々の特性の視点を持ちながら、集団適応に向けた見立てや手立てを専門的にアドバイスすることが求められる	所属機関や保護者へ伝わりやすい記録や書式について検討する。
3	集団適応に必要なスキルのアセスメント手法。 集団における子どもの適応行動や評価と、個別療育場面における子どもの適応行動や評価の違いを客観的に捉えながら、対象児の見立てや必要な手立てを共有すること。	アセスメントや観察のポイントについての整理。	訪問支援におけるアセスメントツールの充実